

来場者の声

オープン以降、町内外からたくさんの方が訪れている道の駅。
そこで、来場者のみなさんの声を集めてみました。

多くの人で賑わうくにみ市場



「きれいで良い雰囲気の道の駅」

河野さん家族（宮城県川崎町）

宮城県から家族5人で来場の河野さん家族は「お土産をたくさん買いました。試食で食べたリンゴとあんずのジャムもおいしかったので買ってみました」と、くにみ市場での買い物を楽しんでいました。

また、道の駅についても「きれいで良い雰囲気だと思います。品物にもこだわりを感じます」と好評でした。



「大人も子どももリフレッシュできる」

浦住さん家族（伊達市）

伊達市から家族4人で来場の浦住さん家族は木育広場を利用し、「長時間のドライブになると子どもたちはどうしても飽きてしまうので、こういう施設があると大人も子どももリフレッシュできていいですね」と話していました。

2人のお子さんは「タマゴボールイ」がお気に入りの様子で、元気いっぱい遊んでいました。



「国見バーガーを食べてみたくて」

藤岡堯さん・渡辺広子さん（郡山市）

郡山市の藤岡さんと渡辺さんは、テレビで道の駅のオープン情報を知り、町の名物グルメとして紹介されていた国見バーガーを目的に来場。

「サバの味噌煮を挟んだ「クラシック」を注文しました。意外にもパンとサバの組み合わせがあっという間おいしいです」と笑顔。パンズのパンもお気に入りの様子でした。



「こんな場所が欲しかった」

広報くにみ担当者（国見町）

ご存知ですか？ももたんカフェがおしゃれなカクテルバーになることを。真相を確かめるべく体当たり取材（プライベート）。

オーダーしたのは鮮やかな色のカクテル「チャイナブルー」。奥山邸の雰囲気をまとう贅沢な空間で、時間を忘れてゆっくりといただくカクテルは一味違う気がします。特別な気分になりました。夜の道の駅もまた魅力的です。ぜひご利用ください。



「レストランを楽しみにしていました」

学生時代の友人のみなさん（国見町）

友人の帰省にあわせ、県北中学生時代の同級生4人でレストラン桃花亭を訪れたみなさん。「町内にはあまりこういう場所がなかったので楽しみにしていました」と、新たな「集いの場」の誕生に期待を寄せていました。

食事の感想を伺うと「今まで見たことも食べたこともない料理でおいしかったです」と絶賛していました。



「これからの道の駅のモデルになるのでは」

植田享一さん・和子さん夫婦（郡山市）

「道の駅に泊まってみたい」と、郡山市から来場の植田さん夫婦は、記念すべき最初の宿泊利用者。植田さんは「部屋、お風呂も広く、木のぬくもりであふれていて、久しぶりにゆっくりできました。食事もおいしく、宿泊料金もリーズナブルで大満足です」と絶賛。多機能でサービスが充実したこの道の駅について、「今後の道の駅のモデルになるのでは」と話していました。



ビュッフェを楽しむ参加者

ビュッフェパーティーも開催 くにみしゅらん

町は、今年も県外の女性層を対象に、国見町の歴史や食、農業、伝統文化などを体験していただく「くにみしゅらん」を実施します。今年第1回目の「くにみしゅらん」が5月26日から27日の2日間行われ、11人が参加しました。

道の駅オープン後はじめてのくにみしゅらんとなる今回は、道の駅を核とした「くにみ流」のおもてなしを展開。1日目は奥山家住宅をはじめ、国見峠長坂跡、あつかし歴史館、阿津賀志山防塁など、町の歴史資源を探索しました。そして夜は、道の駅の「うぐいす」



「匠の技」を披露する大津料理長

でビュッフェパーティーを開催。地元の食材をふんだんに使った、国見自慢の食を堪能しました。また、大津料理長がその場で握る「スベ」シャルな創作お寿司も振る舞われ、その技と味に酔いしれました。

この日は道の駅の「風道」にご宿泊。これまでのくにみしゅらんは町外に宿泊していましたが、宿泊施設を持つこの道の駅が出来たことで、初めて国見町内で完結するツアーとなりました。参加者のみなさんは、心ゆくまでゆっくりとした時間を過ごされました。

2日目は青年農家の渋谷憲道さんと阿部郁さんの桃畑で桃の摘果作業を体験。小坂ふるさと館では婦人会のみなさんによる国見の家庭料理が振る舞われ、地域のみなさんとの交流を深めました。

道の駅に戻り、この日特別に披露された町無形文化財内谷春日神社太々神楽を鑑賞しました。その後、「くにみ市場」でのお買い物を楽しみ、名残惜しくもツアーは終了。

道の駅、そして国見町の魅力を満喫する2日間となりました。



「地元の「食」に対する熱意を感じました」と感想をいただいた折橋豊子さん（左）と吹野由美さん（右）。中央は青年農家の阿部郁さん。